

刻された古代日本の書

「のちの世につたえたい。」古代人の思いをのせて、おだやかにのびやかに刻された日本の金石文。

令和7年9月5日(金) — 10月19日(日)

【開館時間】午前9時～午後4時半 【休館日】月曜日(祝休日の場合は翌日)
【観覧料】一般500円、高校・大学生300円、中学生以下無料

主催 春日井市

協力 伊藤滋氏(木難室)・名古屋市博物館

法興元年十一月歲次辛巳十二月鬼
前太后崩明年正月廿二日上宮法
皇枕病弗念干食王后仍以勞疾並
著於床時王后王子等及與諸臣深
懷愁毒共相發願仰依三寶當造釋
像尺寸王身蒙此願力轉病延壽安
住世間若是定業以背世者往登淨

「のちの世につたえたい。」古代人の思いをのせて、おだやかにのびやかに刻された日本の金石文。

令和7年9月5日金 | 10月19日日

【開館時間】午前9時～午後4時半 【休館日】月曜日(祝休日の場合は翌日)
【観覧料】一般500円、高校・大学生300円、中学生以下無料

主催 春日井市
協力 伊藤滋氏(大難室) 名古屋博物館

法興元年十一月歲次辛巳十二月鬼
前太后崩明年正月廿二日上宮法
皇枕病弗愈于食王后仍以勞疾並
著於床時王后王子等及與諸臣深
懷愁毒共相發願仰依三寶當造釋
像尺寸王身蒙此願力轉病延壽安
住世間若是定業以背世者往登淨
土早昇妙果二月廿一日癸酉王后
即世翌日法皇登遐癸未年三月中
如願敬造釋迦尊像并侍及莊嚴
具竟乘斯微福信道知識現在安隱
出生入死隨奉三主紹隆三寶遂共
彼岸普遍六道法界含識得脫苦緣
同趣菩提使司馬鞍首止利佛師造

講演会

日時 9月28日

午後1時30分～3時

演題 「日本金石文拓本から見る書法と真偽」

講師 伊藤 滋 氏 (岐阜女子大学特任教授。碑法帖拓本の
研究・収蔵を行う。書齋名、大難室。)

会場 道風記念館2階会議室

聴講料 無料(ただし観覧料が必要です。)

定員 70名(抽選)

申込 9月12日までに、道風記念館HP

申込フォームか電話でお申し込みください。

▷法隆寺釈迦三尊像造像銘(癸未年銘)



- ◆I-R名古屋駅からI-R中央本線勝川駅下車 タクシ10分 徒歩30分
- ◆名二環外周りは松河戸ICから3分 内回りには小幡ICから3分
- ◆I-R中央本線大曾根駅からゆとりーとラインで川村駅下車 徒歩10分
- ◆I-R中央本線勝川駅または春日井駅からかすみがしこバス南郷線で



展覧会情報・
講演会申込はこちら

春日井市道風記念館

〒四八六〇九三一愛知県春日井市松河戸町五九一三
電話 〇五六八―八二一六・一〇
<https://www.city.kasugai.jp/shisetsu/bunka/rofu/index.html>

刻された古代日本の書

ふるくから人は、後の世まで永く残したいことを、石に刻したり金属に鋳込んだりして記録してきました。石に刻した文字を石文、金属に鋳込んだ文字を金文といい、合わせて金石文と呼びます。

金石文は、その目的どおり永く世に残る性質があるため、今の私たちがその時代のことを知り得る重要な歴史資料です。そして書道史の上でも、書体や書風を知り、古代人の息吹が感じられる、極めて貴重な美術資料でもあります。

今回の展覧会では、日本の金石文に焦点を当て、仏像の背に刻された造像の由来や故人の墓誌、名刹の門の扁額や灯台に鋳込まれている銘など、刻されて残されてきた、日本を代表する金石文を優れた拓本でご紹介します。

日本の書はずっと中国の書の美を追ってきました。中国には長い漢字の歴史があり、優れた金石文が多く残されていて、現在にいたるまで書法の手本として尊重され、鑑賞されてきました。日本の金石文にも、その時代時代の中国の書からの影響が見て取れます。そしてまた、中国とはちがう日本独特の趣も含んでいます。すこしまろやかな、おだやかなのにびやかに刻された味わい深い書です。

拓本は、実物をみてもなかなか分からない部分までを写し取ります。ぜひゆつくりと鑑賞し、文字の表情を読み取って日本金石の魅力を感じていただきたいと思います。



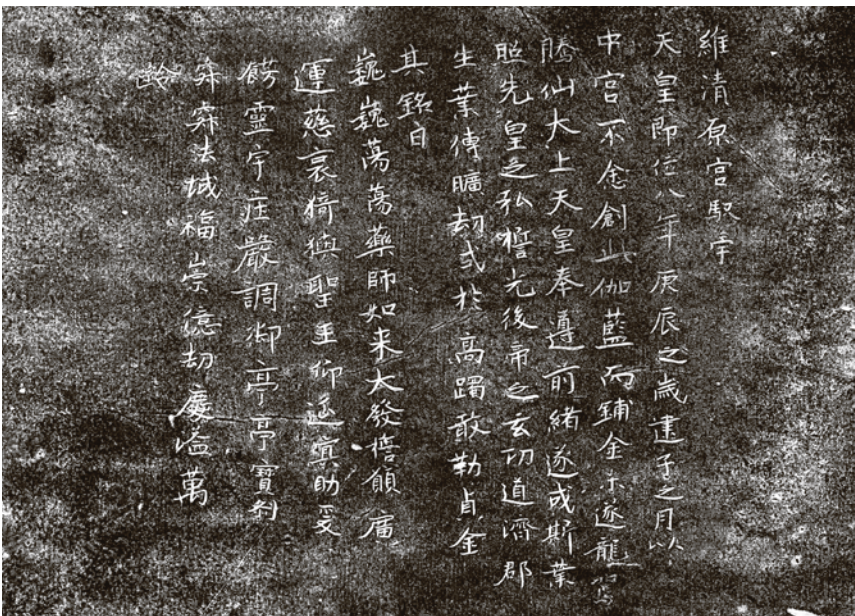
興福寺興聖



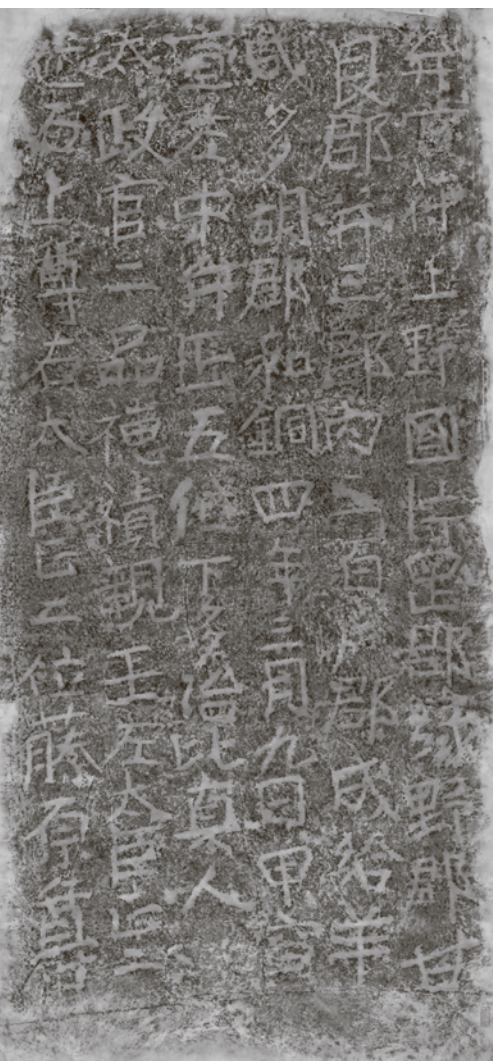
小野毛人墓誌銘



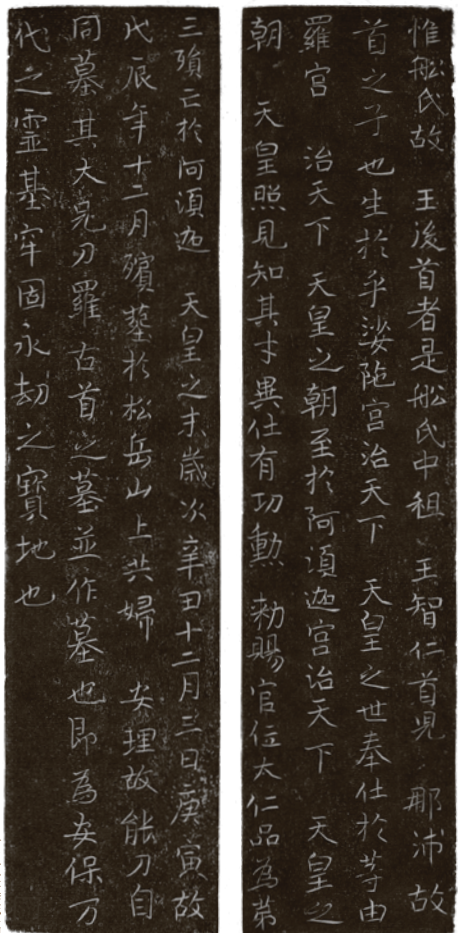
山ノ上碑



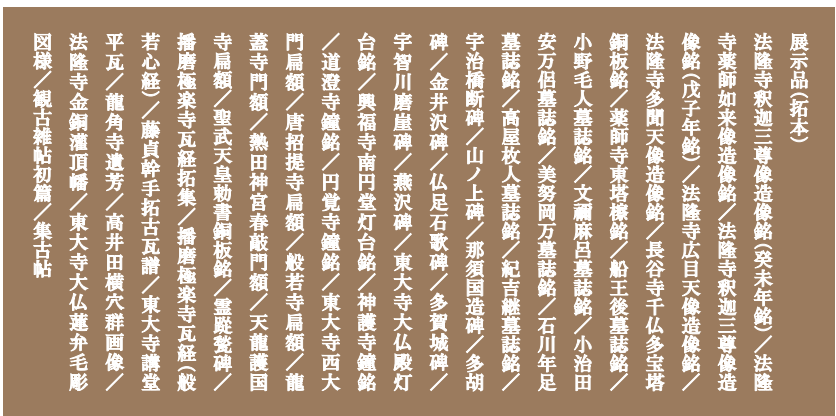
薬師寺東塔樓銘



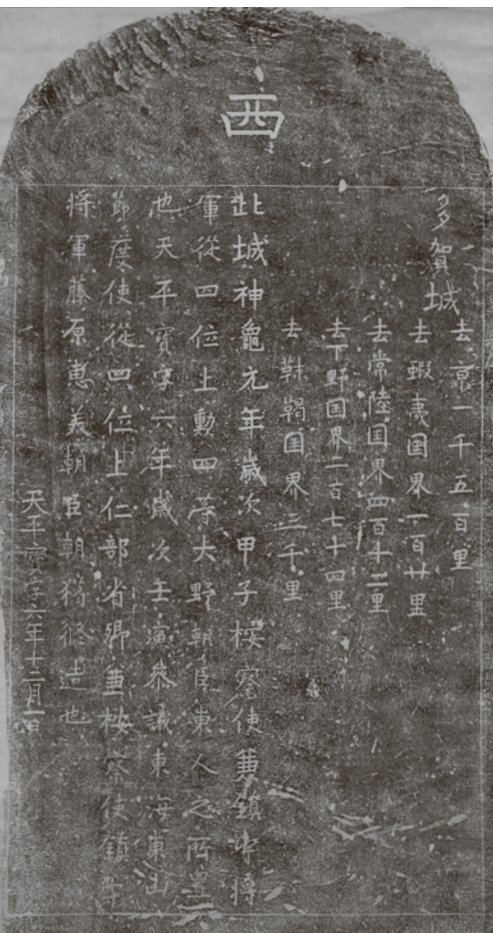
多胡碑



所蔵者名の記載がないものはすべて個人蔵



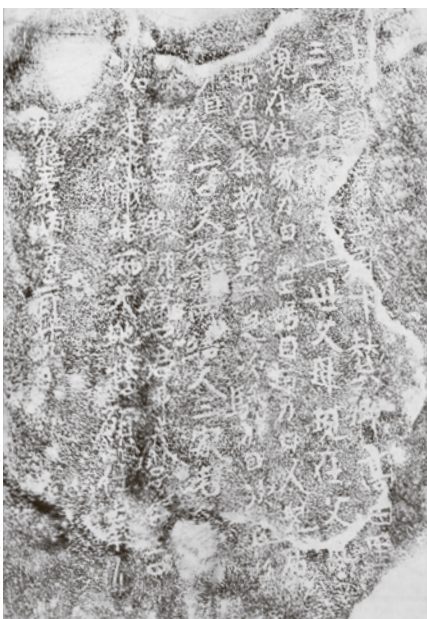
東大寺西大門扁額



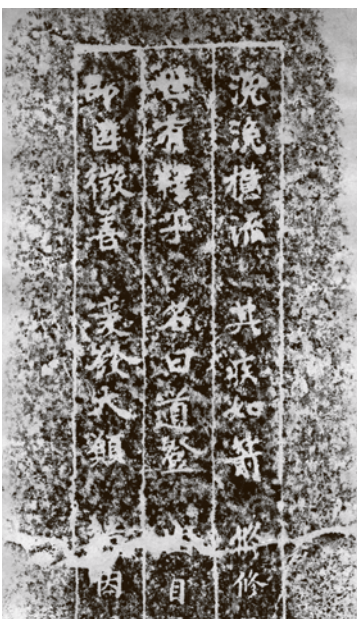
多賀城碑



神護寺鐘銘



金井沢碑(名古屋博物館蔵)



宇治橋断碑